

府中市健康地域づくり審議会
第2回熟年元気づくり分科会 報告書

- 1 日 時：平成25年2月26日（火）10時から11時30分
- 2 場 所：市役所2階第二応接室
- 3 出席者：中野悦成（分科会会長） 原田弘子（分科会副会長）
重森由枝（分科会委員） 前原裕吉（分科会委員）
藤本命壮（分科会委員） 佐藤真二（分科会委員）
- 4 欠席者：宮口英昭（分科会委員）

5 概要

- (1) 開 会
- (2) 分科会長あいさつ
- (3) 議 事

「熟年世代の生きがいづくり」について

① 関連資料の説明

第1回の分科会で出された意見を社会貢献度及び収入のX軸、Y軸で表した表に落とし込んだ資料の説明を行った。

また、一人ひとりの高齢者の生きがいは多種多様で、議論する範囲が幅広くなりすぎることから、高齢者に人材資源としての社会の担い手になっていただくということをテーマに資料を作成し、そのために市ができること、地域でできること、事業者ができることに分類した内容について説明を行った。

市ができることの例として「シルバーベンチャーへの補助制度」、地域でできることの例として「放課後児童クラブの補完機能」、事業者ができることの例として「高齢者施設における生活援助」をそれぞれサンプルとして例示し、その関連資料と併せて説明を行った。

② 質疑・意見交換

【主な質疑、意見】

- 高齢者の生きがいづくりの一つとして、シルバーベンチャーなどを始めてみたら面白い。事業プランコンテストなどのコンペをしたらどうか。
- シルバーベンチャーを始めるに当たり、当初の事業資金として市から補助を行うにしても、半額を当市などの自己負担を求めた方がいい。
- シルバーベンチャーについては、当初の資金のことなどコスト面を考えると6次産業を前提とした農業に絞った方が現実的かもしれない。
- 惣菜をつくられる方はたくさんいらっしゃるので、中心市街地の空き店

舗を活用するなどして販売したらどうか。

- 何を始めるにしても核となる人を発掘することが非常に大事である。
- 先進事例のところはどうやって人を発掘してきたかっていうのがあると、府中も真似してみようということになりやすいし、一つのモデルになる。
- 高齢者の雇用について考えてみることは重要で、出勤してもらわないと困りますという環境が元気な高齢者でいていただくことにつながる。
- 高齢者の雇用について何をするかというよりも、人を雇うために事業主さんにどうしていただくかということが大事。
- 神石高原町は、児童クラブをシルバーに委託されているので、視察を試みたらどうか。
- 学校の放課後に子どもの面倒を見てほしいという具体的な市民ニーズの部分が高齢者に担っていただけないか。放課後児童クラブを補完する機能や、いきいきサロンを常設型にして活用するなどいろいろなことが考えられるのではないか。
- 文化センターの自主事業として元気づくりそろばん塾を開催する。講師も高齢の方で、そろばんは脳の活性化につながる。
- 身近にあるすぐ取りかかれることを取り組むことも大事である。
- おしゃれをするということは元気につながる。今後は楽しみを提供する議論も深めたい。
- 今後は、今回の議論を中心に、核になるとか、あるいは全体をどう動機付けをしていくかとかを具体的にしていきたい。また、次回には、高齢者の生きがいについて、事前にいろいろ準備をしておきたい。

(4) 閉 会

第1回、第2回と議論した内容をふまえ、3月下旬に開催予定の府中市健康地域づくり審議会で分科会中間報告をさせていただくことを了承いただき、閉会した。